

# 『人々の熱狂とイエス様の思い』

'20/09/20

聖書箇所: マルコの福音書 3章 7-12節 (新約 p.68-)

令和を迎えた現代、ここ日本だけではなく…、世界中にキリスト教会が存在しています。その中の、ある教会は、ますます大きくなり…、数を増やしていく反面、ある教会は姿を消していきます…。しかし、だからこそ、今日、私は皆さんに問い掛けたいと思います。本来あるべき教会とは、一体、どういう教会なのでしょう？ いえ、あのイエス様は、どういったことを優先されて、その宣教の御業をなしていかれたのでしょうか？…今日のみことばは、そういったことを私たちに教えてくれるものであると思います。

イエス様は、この地上での働きを終えられて、大勢の弟子たちの前で、こう言い残して、天へと昇っていかれました…。『それゆえ、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子とせよ！』(マタイ 28:19) ⇒ 私たちクリスチャンに今、託されている使命は、“イエス様の弟子を作っていくこと”であります。そのために必要なことが、伝道であり…、教化(=聖書のみことばによって、人々を訓練していくこと)であります。

しかし、私たちが目標とすべきことを明確に分かっていても…、じゃあ、そのことを、具体的に…、また、どのようにして、なしていけば良いのか？という“方法”を分かっていないと、困ってしまうことが多々あります。実際、イエス様は、どのような思いで、救いのメッセージを語り…、またその弟子たちのことを訓練されたのでしょうか？…人々の歓心を買うことだったのでしょうか？あるいは、人々が聞きたいような耳触りの良いメッセージを語ることであったのでしょうか？…一体、どうだったのでしょうか？

どうか、皆さん、よく考えてみてください。…イエス様が、この地上におられた時、イエス様には、「癒し」という、ある種、伝道をするのもってこの武器<sup>1</sup>がありました。しかし、現代に生きる私たちクリスチャンに、そのような武器はありません。では、今の時代、私たちは、どのように伝道していくべきなのでしょう？

## 命題: 人々の関心とイエス様の思いとのギャップについて…

今日、私たちが学ぼうとしている聖書のみことばは、今から 2000 年前に、イエス様がなされていた宣教の働きについて教えてくれています。ここから、今日、私たちは、当時の人々がイエス様に夢中になっていた熱狂ぶりと、イエス様が持っておられたはずの思いとにあった…、“ある種のギャップ”について見てみたいと思います。そうすることによって、願わくは、私たちも、あのイエス様にならって、神様に喜ばれるような…、伝道や教化をなしていきたいと思います。今日は、まず初めに、与えられたみことばをお読みいたします。聖書箇所は、マルコ 3:7-12 になります。そこには、このように記されています。

- 7 それから、イエスは弟子たちとともに湖のほうに退かれた。すると、ガリラヤから出て来た大ぜいの人々がついて行った。また、ユダヤから、
- 8 エルサレムから、イドマヤから、ヨルダンの川向こうやツロ、シドンあたりから、大ぜいの人々が、イエスの行っておられることを聞いて、みもとにやって来た。
- 9 イエスは、大ぜいの人なので、押し寄せて来ないよう、ご自分のために小舟を用意しておくように弟子たちに言いつけられた。
- 10 それは、多くの人をいやされたので、病気に悩む人たちがみな、イエスにさわろうとして、みもとに押しかけて来たからである。
- 11 また、汚れた霊どもが、イエスを見ると、みもとにひれ伏し、「あなたこそ神の子です」と叫ぶのであった。
- 12 イエスは、ご自身のことを知らせないようにと、きびしく彼らを戒められた。

<sup>1</sup> ①戦いに用いる種々の道具や器具。②何かをするための有力な手段となるもの。

## I・人々は、至る所 からやって来た！(7-8節)

今、読んだみことばをご覧くださいと、普段、聖書のメッセージを聞いている私たちでも、あまり聞き慣れないような地名が出てきます。このみことばが具体的に教えてくれているのは、**当時、大勢の人々が、“至る所”から、イエス様のところへやって来た！**ということであり、まずは、そういったことを確認していきたいと思います。

### ●ガリラヤから 退かれた イエス様

どうぞ、まずは、7 節の初めをご覧ください。そこをご覧くださいと、『それから…』(ギリシア語の「καί」)という言葉で始まっています。…と言うことは、今日のみことばは、その前のみことばと繋がっている…、「流れがある」ということです。

今日のみことばの直前…、先週、私たちは、イエス様が、安息日に片方の手がなえた人物のことを癒されたということ…、安息日のことで論争になったパリサイ人たちが恨みを買われたということ学びました。そういったことの後、イエス様は、『湖のほうに“退かれた”…』と、聖書のみことばは教えてくれています。

まず、ここで言われている『湖』とは、もちろん、「ガリラヤ湖」であると思われます。そうして、ここで、『退かれた』と訳されてある言葉(ἀναχωρῶ)は、「①退く(の他)、去る、立ち去る、②帰る…」というようなイメージの言葉で、マルコ伝には、ここでしか使われておりません(新約聖書中には全 14 回)。

こういった表現が少ないというのは、多くの場合、イエス様は、ご自分の…、しっかりとした明確な意志をもって…、あちこちに行かれて、行動されていたからです。もちろん、時には、聖霊に導かれたり(マタイ 4:1)、神の御計画によって、その道が決められたり(ヨハネ 4:4)していた場合もありましたが、イエス様が、何かから逃れるとか、何かを避けられる、あるいは、後退されるというのは、どちらかと言うと珍しい表現ではないでしょうか？…でも、今日のみことばは、イエス様が、この時に、そういった選択をされた！ということを見せてくれているのです…。

### ●そのイエス様を 追って、遠くからもやって来た者たち…

どうぞ、今度は、7 節の後半をご覧ください。…すると、そこでは、せっかく、イエス様がいろんなことを避けて、「ガリラヤ湖の方へ退かれた」ということを教えてくれているのに、「大勢の者たちが、ガリラヤから、そのイエス様についていった…」ということが教えられてあります…。(；\_；)

まあ、この時、イエス様たちは、ガリラヤで活動しておられたわけで…、そのガリラヤの周辺から、イエス様のことを追いかけていったというのは、まあ分かりますし、ある程度、納得できます。しかし、それだけではありません。7 節の最後には、①ユダヤから…、8 節になると、②エルサレムや、③イドマヤ、④ヨルダンの川向こうや、⑤ツロ、⑥シドンなどという地名が出てきます。そこで、今から簡単に、皆さんに地図を見せられて…、もう少し具体的に、そういった状況を把握していただきたいと思えます。

どうぞ、前の画面をご覧ください。…ちょっと、配色がどぎつくて、かえって、見えにくいと思うのですが…、こういった地図しか用意できませんでした。これらの2枚の地図は、少し縮尺が違うのですが…、皆さんから見て、右側の地図の方が、より広範囲の地図になっています。その上の方、緑色の部分が、ここ最近、私たちが学んだ出来事が起こったガリラヤ地方になっています。…そうして、そのガリラヤの右側…、東側にある湖がガリラヤ湖です。今日のみことばでは、イエス様とその一行は、ここに居られます。目印のため、ここに“黒い星印”を付けておきます…。

その次…、その南側にあるのがユダヤで…、ここに多くのユダヤ人たちが住んでおりまして…、エルサレムやベツレヘム、また、ベタニヤやエマオなどの町があります。言わば、聖書の中心地区？と言って良いかも知れません。では、その次、②エルサレムは、どこか分かります？⇒そう、「塩の海」、つまり、現代で言う「死海」の北西辺りにあります…。③3つ目にイドマヤ…。これは、ユダヤの1番南側になります。④その次、4つ目は、ヨルダンの川向こう。これは、書いてある通り、ヨルダン川の東側になります。⑤その次は、ツロ。これは、ガリラヤよりも更に北で…、シリアという地方の中にあります。⑥そして、最後は、シドンです。このシドンはツロよりも更に北側で、この地図上では、最北端になっています。

このように…、当時、イエス様を追って、やって来た者たちは、ガリラヤ湖を中心として、南北に最大300km？東西でも150kmほどの広範囲に渡ります。現代とは違って、車や電車などが無い時代です。この時代に、100kmほどの道のりを移動することが、どれほど大変だったでしょう？…なのに、大勢の者たちが、各地からイエス様のところへとやって来た…。そう、このみことばは教えてくれているのです。

## Ⅱ・人々は、癒しを期待して、イエスを求めた！（9-10節）

さて…、今度は、当時、大勢の者たちがイエス様のところへとやって来た目的…、つまり、「癒し」を期待して、遠くから集まって来た！ということを確認していきましょう。どうぞ、もう1度、今日のみことばの9-10節をご覧ください。そこには、このように記されています。

9 イエスは、大ぜいの人なので、押し寄せて来ないよう、ご自分のために小舟を用意しておくように弟子たちに言いつけられた。

10 それは、多くの人をいやされたので、病気に悩む人たちがみな、イエスにさわろうとして、みもとに押しかけて来たからである。

### ●イエス様が小舟を求められた理由

さて、今読んだみことばをご覧くださいませても、つい今しがた、見たのと同じような「構図」を見ることができます。…と言いますのは、大勢の群衆たちとある程度の距離を置こうとされたイエス様と、そのイエス様を必死になって追いかけた大勢の群衆たち、であります。どうぞ、9節のみことばをご覧ください。このみことばは、一体どうして、イエス様が、せつかく、大勢集まって来た群衆たちと距離を置こうとされたのか…、そのヒントについて教えてくれています。

ここ9節では、当時、あまりにも多くの者たちが、それぞれ、至る所からやって来たという…、「当時のイエス様に対する熱狂ぶり」がうかがえます。…しかし、まあ、それは当然ですよ。…と言いますのも、その中のある者たちは、遠く、100km200kmもの旅をして、やって来たような者たちも居たからです。そういったこともあって、イエス様は、ご自分のため、小さな舟を用意するよう弟子たちに申しつけられます。…恐らく、イエス様は、その舟に乗って、湖から大勢の者たちに向かって、何か話そうとしておられたのでしょうか。聖書を見てみますと、マルコ4章やマタイ13章でも、これと同じようなシーンを見ることができます。

そして、その次の10節をご覧くださいませると、聖書のみことば自身が、一体どうして、イエス様がそんなことをしようとされたのか？その理由について、解き明かしてくれています。10節、『それは、多くの人をいやされたので、病気に悩む人たちがみな、イエスにさわろうとして、みもとに押しかけて来たからである。』って…。

### ●大勢の群衆が押し寄せてきた目的

ここ10節のみことばは、当時、大勢の群衆がイエス様のところへと押し寄せてきた「目的」について教えてくれています。それは、何だと教えてくれています？⇒癒しですよ！…多くの者たちは、自分たちの

病が癒されることを期待して…、イエス様のところへと、はるばる、遠くからやって来たのです。

実は、今日のみことばの平行記事であるルカ6章を参照してみますと、このように記されています。『18 イエスの教えを聞き、また病気を直していただくために来た人々である。また、汚れた霊に悩まされていた人たちもいやされた。19 群衆のだれもが何とかしてイエスにさわろうとしていた。大きな力がイエスから出て、すべての人をいやしたからである。』(ルカ6:18-19)って…。

⇒良いでしょうか？このみことばには、何と、当時、大勢の者たちがイエス様に触れるだけで、病が癒されたり、あるいは、汚れた霊に悩まされていた者たちも、癒されたということが教えられています。…だから、大勢の者たちはイエス様に熱狂したのです！…これは、2000年前に限らず、すべての人類が背負ってしまっている弱さでしょう。…と言いますのは、誰だって皆、自分の病が癒されてほしいからです！…皆さんだって、そうでしょ？私もそうです。

もう、こういったことについては、何度も皆さんにお伝えしてきましたけれども、現代、ここ日本でも、いえ、どこの国々でも、こういったような「癒しによる伝道」がなされています。…確かに、そういった伝道は、どこでも、ある程度の効果を上げています。…と言うのは、誰でも皆、自分の病が癒されることを願っているからです。…でも、どうか、皆さん！騙されないでください。

イエス様がなしてくださった癒しと、それこそ、現代に、多くの人たちが「癒された！」と信じている内容とは、大きな差があります。…もしも、イエス様が癒されたのだったら、それは、一瞬の内に起こりました。…例えば、マルコ1:31で教えられてある、ペテロのしゅうとめがそうです。彼女は、熱病で寝込んでおりましたが、イエス様が癒してくださると、一瞬で熱が引いて、すぐに立ち上がって、イエス様たちのことをもてなしたでしょ？…そのように、イエス様が癒してくださったのなら、その病は一瞬で治るのです！

しかし…、現代、多くの人たちが「癒された！」と思い込んでいるのは、それとは違います。彼らは皆、イエス様が起こしてくださったような奇蹟(=神のしるし)とは違って、何らかの治療によって…、あるいは、自然治癒などで…、つまり、癒されるべくして癒されたのです。…そうでしょ？

実は、つい最近、あるTV番組を観ておりましたら、そこで、「河童のような死体」を祭っている場所が特集されておりました。その昔は、死んだ動物たちの死骸を寄せ集めて…、「これは河童だ！(とか)宇宙人の死体だ！(とか)未知の生物の死骸だ！」なんて触れ回って、見世物にして、お金を儲けるような興行があったじゃないですか…。恐らくは、そういったものの一種だと、私は確信しているのですが、そのTV番組では、その河童のような死骸を紹介するに当たって、「この河童に願った者の、ある者は、子どもを授かったので、今では、多くの者たちが、子どもが授けられることを願って、お参りに来ています…」みたいな感じで紹介しているのです。(笑)

皆さん、分かってくださいますでしょ？…それは、誰だって、あるいは、どこでだって、拝んだ者の、ある者たちの願いは叶います！…と言うのは、「大勢の者たちが」祈っているからです。…それと同じようなことなら、この教会でだって起こります。だって、大勢の者たちが祈れば、その者の内、何人かはその願いが叶うからです！そうでしょ？…不妊であろうと、難病であろうと、あるいは、末期がんで、宝くじだって、そうです！大勢の者たちが大挙して、何かを願ったら、確率的に、その内の何人かは、その願いが叶います。…でも、私たちが知りたいのは、本当に、彼らは、神様が奇蹟を起こしてくださったかどうか、です。…そうでしょ？

## Ⅲ・イエス様は、別のことを優先しておられた！（11-12節）

どうぞ、今日のみことばの最後の部分である11-12節をご覧ください。ここでも、当時の者たちの願いと、イエス様の思いとの間に、何らかの溝があったことが分かります。当時の民衆たちとは違って、イエス様は、彼らとは「別のこと」を優先しておられた！のです。11-12節には、こう記されています。

11 また、汚れた霊どもが、イエスを見ると、みもとにひれ伏し、「あなたこそ神の子です」と叫ぶのであった。

12 イエスは、ご自身のことを知らせないようにと、きびしく彼らを戒められた。

### ●イエス様が 悪霊ども になされたこと

今読んだ 11 節を見てみますと、前に学んだように、汚れた霊…、つまり、悪霊どもでさえ、イエス様にひれ伏して、イエス様のことをあがめてしまう？みたいなシーンが描かれています。…でも、皆さんも覚えてくださっている通り、悪霊たちは、心から喜んで、イエス様のことをあがめようとしているではありません。ちょうど、マルコ 1:24 の悪霊と同じです。悪霊たちは、一見、正しいことを言っているように見えたとしても、その目的は、神様に逆らい…、神様の御業をジャマしようとしているのです。

これまた、皆さん、覚えてくださっていると思います。…マルコ 1:34 には、こう記されてあります、『イエスは、さまざまな病気にかかっている多くの人をいやし、また多くの悪霊を追い出された。そして悪霊どもがものを言うのをお許しにならなかった。…』って…。先程も言いましたように、悪霊どもは、所詮、悪魔の使いです。彼らの目的は、少しでも、神様の御働きをジャマすることです。だから、イエス様は、その悪霊たちがものを言うのをお許しにならなかったのです。…それと、もう一つ。イエス様は、その…、悪霊を追い出してもらった者たちに対して、「ご自身のことを知らせないように、厳しく戒められた」のです。

皆さんもお気付きのように…、この聖書を見てみますと、この当時は、今の日本よりも、悪霊たちの動きが活発であったのかも知れません。いえ…、ひょっとしたら、今の時代、悪霊たちは、もっと巧妙になっているだけかも知れません。でも、イエス様の時代には、多くの悪霊どもが居て、多くの者たちが、それによって混乱していたようです。イエス様は、そういった悪霊どもを追い出すことがお出来になりました。それはそのはずです。だって、イエス様こそは、全知全能の神なのですから…。

でも、イエス様は、だからと言って、悪霊たちを追い出すことを“売り”にして…、つまり、そういったことを宣伝しながら、神の働きをなそうとはされませんでした。だから、イエス様は、その悪霊を追い出してもらった者たちが、不用意に、そういったことを吹聴して回ることも許されなかったのです。…と言いますのも、イエス様は、そういった悪霊を追い出せるということをお“売り”にしたくなかったからです。ここのみことばは、そういったことを教えてくれているのです。…そうじゃないでしょうか？

### ●私たちが 宣教 する時に覚えるべきこと

そうして、最後に、今日、私たちが考えていきたいことは、私たちが宣教する時に覚えるべきことです。今日、私たちが確認してきましたように、この世の人たちの関心は、自分自身のこと…、あるいは、この世のことだけです。しかし、それは無理ありません。…と言いますのは、救いという恵みを知らない彼らからすれば、この地上での人生の後に、「永遠」(の祝福か裁きか)があることも知らないし…、真の神様がおられることも、彼らは知らないからです、本当の意味では…。ちょうど、**ピリピ 3:19** に、『**彼らの最後は滅びです。彼らの神は彼らの欲望であり、彼らの栄光は彼ら自身の恥なのです。彼らの思いは地上のことだけです。**』と教えられてある通りです。

でも、そういった中であって、イエス様は、福音のメッセージを…、言わば、救いのメッセージを伝えるために、この地上へとやって来てくださいました。マルコ 1:38 で、イエス様が、『…さあ、近くの別の村里へ行こう。そこにも福音を知らせよう。わたしは、そのために出て来たのだから。』とおっしゃられた通りです。この時、イエス様は、せっかく大勢の者たちがイエス様のところへ集まって来ていたにも関わらず、「別の村へ行こう！」とおっしゃいましたが、それはどうしてでした？⇒それは、大勢の者たちが、癒しを願って、イエス様のところへ来ているだけだ！ということをお、イエス様は誰よりもご存じであったからです。そうでしょ？

イエス様は、多くの者たちが、癒しや…、あるいは、単なる物珍しさのゆえに、ご自分のところへと集まってこられるのを、果たして、喜ばれたでしょうか？…実は今、教会やクリスチャンたちをターゲットに、「癒しの集会へのお誘い、癒しのための講習会」のようなものがあります。…と言いますのは、そういったもので、ある程度、多くの人たちが集まってくるからです。…そういったことは、今も…、2000 年前も、そう変わりませんか？

でも、果たして、イエス様は、そういったような伝道をされたでしょうか？ 果たして、イエス様は、「癒されたいなら、わたしのところへ来なさい！」そうおっしゃって…、人々を癒された“ついでに”、福音のメッセージを語られたのでしょうか？

確かに、最近、私たちが学んできた聖書のみことばには、そういったような癒しと同時に、福音のメッセージが語られている場合があって、イエス様が、さも、癒しを誘い水にして…、福音のメッセージを語られたように見えるかも知れません。しかし、実際は、そうでは無い！ということが、今日のみことばによって明らかになっています。イエス様は、大勢の者たちが病で苦しんでいるをご覧になって、そして、憐れみのゆえに、多くの者たちを癒してくださったのです。皆さん、覚えてくださっていますか？…天の神様は、何よりも憐み深いから、私たちは生かされ…、救いの道が備えられたのですよね？ **哀歌 3 章**に、『**私たちが滅びうせなかったのは、【主】の恵みによる。主のあわれみは尽きないからだ。**』と教えられてある通りです。また、エペソ 2 章でも、私たちが救われたのは、神があわれみ深かったからだ！というように教えてくれていますでしょ？

それと、イエス様がなされた奇蹟の 1 番の理由は、ご自分こそが神であり…、正しいことを語っている！ということの証明でありました。…ということは、つまり、やはり、1 番の優先順位は、奇蹟そのものではなくて、人々が救われることにあったのです！…そうでしょ？

### < 励ましの言葉 >

私たちの周りの現実世界を見ても…、あるいは、この聖書のみことばを見ても分かることは、所謂、奇蹟と言うか、癒しなどを売りにすると、人々は集まってきます。それは、2000 年前も、今の時代も変わりありません。しかし、そうやって、多くの人たちが集まったからと言って…、それで、その人たちが救われるかどうかは別話です。もっと言えば、それで、「私はイエス様を信じます！」と告白されたとしても、本当に、その人が救われているかどうかは分かりません。「だって、イエス様は、私の病気を癒してくださったから…。(あるいは、)イエス様は、私の願いを叶えてくださったから…、だから、私はイエス様を信じたんです！」というのは、果たして、聖書が教えてくれている、本物の信仰でしょうか？ 果たして、それは、正しい悔い改めを伴った、本物の信仰でしょうか？…いいえ！大切なのは、Iヨハネ書が教えてくれているように、その人に神様を愛する愛があるかどうか、兄弟姉妹に対する愛があるかどうか、です。そうでしょ？

どうか、皆さん。できましたら、イエス様が伝道と言うか、証しについて教えてくださっている、**マタイ 5:16**のみことばを思い出してください。…もう時間が無いので、その前のみことばは省かせていただきますが…『**このように、あなたがたの光を人々の前で輝かせ、人々があなたがたの良い行いを見て、天におられるあなたがたの父をあがめるようにしなさい。**』とイエス様は教えてくださいましたよね？

⇒このように、私たちが伝道のために用いるべきツールは、私たちの信仰です！あるいは、神が私たちに与えてくださった希望であり…、そこから生じてくる正しい生き方です！癒しではありません！…しかし、今、多くの教会がカリスマ…、つまりは、非聖書的な奇蹟や癒しなどに走る傾向にあります。…と言いますのは、そういった奇蹟や癒しを求めて、多くの人たちが今も集まってくるからです！…しかし、それらは、正しい伝道の方法ではありません。

また、皆さんは、こんなみことばも、よくご存じのはずです。ヤコブ 2:17-18、『17 それと同じように、信仰も、もし行いがなかったなら、それだけでは、死んだものです。 18 さらに、こう言う人もあるでしょう。「あなたは信仰を持っているが、私は行いを持っています。行いのないあなたの信仰を、私に見せてください。私は、行いによって、私の信仰をあなたに見せてあげます。』』って…。⇒このみことばが教えてくれているように、人を救うことができる本物の信仰は、行ないによって、自分自身の信仰を見せることができます。果たして、あなたの信仰は、信仰をお持ちでない人に見せられるような…。何かしら、救われる前とは違う…。“明らかな違い”があるでしょうか？どうか、皆さんの信仰が、まだ、信仰をお持ちでない方たちからして、魅力的な…。塩味のきいた(コロサイ 4:6)ものでありますように…。最後に、お祈りをもって、今日のメッセージを終わらせていただきます。